

めだかの学校だより

平成10年11月1日

第22号

学舎：いなさ自然休養村

<つみくさ>

事務局：引佐郡引佐町

東久留女木 472-111

TEL 053-545-0381

校長訓話

第二十二回校長 高森久枝

めだかの学校の校長先生なんて考えてもいなかった事で、びっくりしたのが本音です。

たぶん、誰かさんのいたずら心で、決められたのでは...とは思いますが、前回急に、他の方が変わっていただいたので、今回は、じたばたしないことに決めました。

私は、昔から能天気とか、面白い人(というよりは、変な人)と言われまして、外見は、良妻賢母風(?)ですが、中身は、違って、頭の中をどんな構造か見てみたいと、身近の人からも言われる始末です。今は3カ月に一回のめだかの学校が面白くて、人間大好きな私には、皆さんとの会話を楽しみにしています。

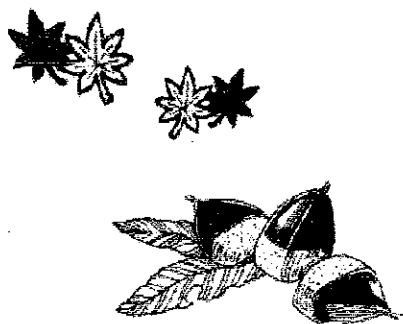
ところで、皆さんの中には、「一冊の本が私の人生を変えた」という、本との出会いをした方もいらっしゃると思いますが、私も小学生の頃に読んだ「少女パレアナ」(著者エレナ・ポーター)が今



も心の中に残る大切な本です。

内容は、牧師さんの家に生まれたパレアナという少女が、欲しがっていた人形が慰問袋に入っていないと、松葉杖が変わりに入っていたのです。それでパレアナがっかりしたら、父親から「松葉杖を使わないですむ事を書ぼうね。」と言われて、そのときから、どんな事が起きても喜ぶことを探し出すゲームを始めたのです。そして、出来事が難しければ難

しいほど、面白くてやりがいがあるという喜びの遊びを、アメリカ全土に広めたのです。今で言うプラス思考の本なのです。ウエブスター辞典には、パレアナと引くと、喜びを意味すると出ているそうです。私は知らないうちに、喜びの遊びを長い間続けていた訳ですが、喜ぶことが難しい出来事に何回も出会いました。今年、最愛の兄を亡くし、夫が病に倒れた時は、悲しみの中で、苦しみました。そのような時でも探し出したときの喜びは「やったー!」という心境です。夫は、「何でも遊びにして楽しそうだね」と、たぶん半分あきれて言っていますが、これからはタジャレー婦人で、皆さんに色々御迷惑をおかけし続けると思いますが、どうか見捨てないで、いつまでもせめて養老院に入るまで、めだかの仲間であり続けてくださいませ。



めだかの学校伝言板

..... 第22回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日/平成10年12月4日(金)6:20PMより

校長/高森 久枝 教頭/落合 啓二

用務員/鈴木 計芳

給食係/渡辺三ツ子・本島慎一郎・野末かつ子
鈴木正子・水村春江・中川泰・梅田啓子
鈴木武史・伊藤英雄・松本泰榮

受付/渥美末夫・藤原俊子・井下美乃

(注) 給食当番で名前が欠落している生徒はPM.4時に学舎へ集合して下さい。

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286

いなさ自然休養村「つみくさ」

☎ 053-543-0321 (開校日のみ)

時間割

1時限目=杉山典久先生

英語「英単語の覚え方」

2時限目=柴田芳明・木村智子 父と子先生

理科「智ちゃんとクマおじさんの園芸講座」

3時限目=早川裕康先生

社会「町長も出したよ、おらが町の夢倶楽部」

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

■遠州の信仰と並木道でつなごう 県域連携懇話会で めだか大いに吠える

遠州と信州の民間、行政の代表者でつくる遠信県域懇話会の委員会が10月7日長野県飯田市で開かれた。その席にわがめだかの生徒の武井紀夫、松田不秋の両名が静岡県側5名の委員に名を連ねて参加しているが、この日は「遠州と信州を結ぶ国道152号など」と並木道でつなごう、そして「2004年の国際園芸博と合わせて海抜0メートルから千メートルの村や町が並木道の供給基地となるような研究をしていこう」とでつかい夢が飛び出した。これは委員会全員が賛成。今後はこのアイデアを交流事業としていこうと、まさに面目を施した二場面だった。

■三遠南信サミットとシンポジウム開かる めだかの学校の輪広がる

かつてない構造不況の中、21世紀の三遠南信はどうあるべきかを問う三遠南信サミットとシンポジウムが10月8日飯田市内のホテルで開かれた。会場には構成市町村の行政マンや商工会議所、商工会等の民間人代表数百名が勢揃いして、サミットに、シンポジウムに、熱い議論の花が咲いた。たしかに不況の波は深刻だが、そこまでやどてきている21世紀。豊かな自然や文化の宝庫といわれる三遠南信地域にはグリーンツーリズムやエコツーリズムの追い風が吹いている。今、直面している日本全土の戸惑いは、右上がり志向と金中心主義で来たことかからだといつていい。もうこの時点で経済大困

の幻想を総括し、新しい日本の価値観をつくる時がきている、と参加者は一様に叫んでいるようだった。三遠南信の明日は明るい。まさに三遠南信の時代だという実感が会場中にあふれていた。会場にはめだかの学校のおなじみさんが何人かいた。「あの元気「久しぶりだね」めだかの学校へ今度は行くからね」域を越えたおもしろ人たちのネットワーク。うれしい限りだ。新しい時代への好奇心、遊び心、あつげらかんとしたプラス志向が会場のここかしこでこぼれまわっている。どうもめだかの学校の建学の心が広がっていると感じたのは私だけだろうか。(武井生徒)

■清里にメダカが泳ぐ

台風10号に伴うどしゃ降りに見舞われた10月17、18日の土日に、清里高原に元氣なメダカが泳いでいました。鈴木正を筆頭に、尾上、湯浅夫妻、中川、落合、そして私などの面々でした。清里の開拓の父と言われ、戦前戦後に日米の架け橋となつて日本の福祉や医療、教育の発展に献身されたポールラッシュ博士の偉業をたたえる「ポールラッシュ祭(ハタケカンテン・ラッシュ)」に参加したので、博士はどんな人か、博士と清里のつながりは何があつたのかは別の機会にしますが、この祭りは大変魅力的な祭りで、私は3回目ですが、鈴木(正)さんなどは少なくとも5、6回は参加していると思います。

このポールラッシュ祭は、清里高原の「清泉寮」前の牧草地にステージが作られ、コンサートが開かれたり様々な店が出店し、訪れるお客さんと収穫の喜びを分かち合い、高原の秋を楽しむものです。出展は地元の人たちが中心ですが、全国各地から来ています。今年には、愛知県西尾市、名古屋市長瀬市、それに北海道の標茶高等学校などが出店していました。また、祭りの運営に、ボランティアを募集して、全国から若者男女が集まってきました。私達もこのボランティア

アとして参加し、少しのお手伝いをしながら祭りを楽しまれました。そして、この祭の魅力と醍醐味は、こうして全国から集まった出店者とボランティアによる交流です。前夜祭や夕食の大鍋大会、打ち上げ、その他口ツジでの夜なべ談義など顔見知りの人や、初対面の人が入り交じって情報交換とPRを繰り返してきます。来年も、きっと誰か参加すると思えますので、興味ある方は「連れていけ」と行って下さい、御案内致します。詳しいことは、深谷、鈴木(武)、松本、中川まで。(松本芳廣生徒)

■地域づくり団体全国研修交流会 「夢はきこくかなうー」に参加して

全国の地域づくり関係者が一堂に会して、「とびさりの夢」と「それを支える熱い出会い」、さらに活動を続けるための「元氣」を持つて帰ってほしい、ということ地域づくりに関わっている人たちの全国研修交流会が、8月27、28日山形県遊佐町等で約460人が参加し開催され、出席させていただきました。静岡県からも県の関係者や地域づくりへ取り組んでいる人たちが参加しました。第二日目は「ふるさと」や「広域、出会い、情報、システム」等の各種の夢を語る「分科会」。さらに夢宣言が行われ、分科会、ことに夢が発表され、夢大賞が授与された「全体交流会」が開催されました。夜は市六町の各研修会会場に分かれて、「地酒持ち寄り歓迎」ということで、地元の特産品の賞味や、伝統芸能の披露等が行われた交流会が開催され、それぞれ東北の素朴な夜を満喫しました。

第一日は各会場に分かれて、鳥海山登山や各地の探訪等が行われました。あいにくの悪天候でしたが、地元の人温かい心にあふれ、それぞれ「夢」を持ち帰ることができました。全体を通して、特に運営面に多くの民間団体の協力が目立ちました。その中でも、首都圏の人々が、有機栽培を

☆こころには。

「めだかの学校だより」いつも楽しく読ませて頂いております。今回は、切手を見て、榊原さんのスゴさを感じ知らされました。よく見ると、めだかの学校の切手ではないですか。オリジナル切手なのか、探し出したのか、想像するよりもすばらしいというか、感動です。めだかの学校」に寄せる皆さんの熱意が伝わってきました。

いつかは、廊下からでも眺めてみたいと思つていますが、3年前に転職し、高2の娘を頭に、4人の子供たちもそれぞれに受験期に入り、思うように動けなくなつたのも現実であります。そんな時の「めだかの学校だより」は、地域づくりの原点を忘れさせないものであると思っております。私の地域づくりの栄養剤ですね。(中略)

メダカ春秋(21号)の松本芳廣もなるほど、そうだと思ひながら、自分は何をすればいいのかと考えさせられた。ボランティアだ、地域づくりだと言いたい放題、やりたい放題、恐いもの知らずの時期もあったような気がするが、どんな街にしたいのか見失つたような気がする。行政に対して意見はある、言えるが、その後、どう行動すればいいのか見えてこない。批判ばかりのような気がする。(中略)行動だと思ひながら、机に座っている自分がくやしい限りです。

「めだかの学校」...

とき：11月7日午後1時より

青水市、蒲原町、由比町、富士山町。

「めだかの学校」...

「めだかの学校」これからは頑張り下さい。
秋田県鹿角市 奈良務生徒
(めだかの学校不登校生心はいづもめだか)
九九八八二〇

☆全国農村アメリテイ優秀地区に 引佐町渋川が内定

国土庁が毎年行っている全国農村アメリテイコンクールにおいて、本年度引佐町渋川地区が全国候補地区の中から3地区の優秀地区に選ばれ、このほど審査委員による現地審査が2日間にわたっておこなわれた。審査委員は、東京大学名誉教授原義信氏を会長とした9人のメンバーで、委員の中には東京大学名誉教授木村尚三郎氏、写真家沼田早苗さん、女優の浜美枝さんなども現地を訪れた。委員の一行は、渋川地区の生活・文化・行事・伝統芸能・教育・自然など巾ひろく視察をし、案内役の行政担当者や地元関係者も委員達の鋭い質問に戸惑う場面も見られた。

中でも関心の高かったのは、地域の若者たちが秋まつりの屋台を自分で製作している現場や、寺野ひよんどりの上演とこれに関する歴史的な説明(日本画家伊藤信次さん)伊藤八行生徒の父)であった。夕方、地元で開かれた交流会の席上浜美枝さんの農村生活での母親論に感動した30代の主婦が、翌朝、早速浜さん宛手紙を届けたことが印象的であった。

尚優秀3地区の中から最優秀地区1地区が11月上旬決定することになっている。



イベント情報

天竜村 第三回秋の風のコンサート

とき: 11月7日午後1時より
演奏終了後交流会を予定しています。
ところ: 天竜村立福島小学校
坂部分校にて
主催: 関さんとゆかいな音楽仲間たち
協賛: 天竜村教育委員会
協力: 坂部の皆さん
(上嶋裕志生徒)

●第10回いなさ人形劇まつり

11月21日(土)〜23日(月)の3日間、引佐町多目的研修センターと引佐町健康文化センターなど

出演劇団は、プロアマあわせて30劇団余、公演回数も60余、伝統から現代劇まで胸をわくわくさせるものばかりです。今回は、10周年と言うこともあり、引佐町の伝統芝居「横尾歌舞伎」と八王子市の無形文化財である「八王子の車人形」のジョイント公演、人形劇団むすび座、影絵のかかし座、西畑人形のたけのこなど、子どもから大人まで楽しめるものです。

入場料は、大人500円、子ども300円(公演・観劇券は、前もって買ってください)。当日券はありますが、すぐ売切れます。申込み問い合わせは、引佐町役場企画商工観光課
☎05335421113
又は、多目的研修センター
☎05335420250
FAX05335420251まで。

企画商工観光課の課長と課長補佐はめだかの生徒です。人形劇まつりを立ちあげのキツカケをつくったのは、伊藤茂男と榎原幸雄(静岡県人形劇協会初代会長)です。もうひとり竹下元首相(ふるさと創生)徳岡(榎原)提供)もいました。

●しずおか未来づくりネットワーク 交流会議ー駿河路開催ー

みてくりよりおらんちの「...」

清水市、蒲原町、由比町、富士川町。一市三町からの発信は、11月27日(金)〜28日(土)の二日間、清水市三保の三保園ホテルで開催される。

日程は、27日11時から分散研修が、清水市、由比、新蒲原、富士川の各JR駅前まで受け付けそれぞれの地域を視察研修する。

その後主会場である三保園ホテルへ移動し、16時30分から開会式。主催者あいさつにはじまり、地域づくり団体表彰、18時から交流会、20時から夜なべ談話。28日は、9時から分科会(清水港むかしの次郎長いまエスハルス②海が好き、山が好き、由比が好き③かんばらよいとこ二度はおいで④チヨット寄つて逢宿(間宿)ふじかわ⑤海とまちとの共生時代、日本初「海」の駅しもだ)をめざして⑥21世紀に輝け、宮口の文化!!!

11時30分分科会報告、講評。12時閉会。
昼食(オプショナル)中庭にて、秋刀魚パーティー。

参加費10000円(泊朝食・交流会費含む)交流会のみの場合は5000円。分散研修への参加は5000円〜10000円が必要。

この交流会は、第二回は大須賀町、第三回は川根3町、今回が三回目です。二回の会議には、めだかの生徒も多数参加しています。特に三回目の実行委員会には、アドバインザーの武井紀夫、花井孝をはじめ幹事の榎原幸雄、本島慎二、各地域から富士川町の榎本恵美子、天野恵美子、蒲原町の服部竜一、片瀬信江、大須賀町鈴木武史、川根町の北島亨らの生徒が企画から参加しています。大いに盛りあげたい。

参加希望者は、11月10日までに、事務届まで連絡ください。締切は過ぎますが、まとめて申込みます。
☎05335450381
(榎原)

●サトウキビ切り体験

とき: 11月22日(日)午前10:00頃から
ところ: 静岡県大須賀町中新井

「なんでもあり農園」
(サンサンファーム)のすぐ南側
かいひ: 家族10000円
(一人でも10000円)

その他: お昼はパーベキューや焼きそば、天ぷらをやりますが、おにぎり
と水筒は持参願います。

※サトウキビの収穫をお手伝い頂いた方には、「しろした糖」1キログラム(2000円相当)の無料引替券を差し上げます。

「なんでもあり農園」とは、何でしょうか。

大須賀町の海岸沿いの約3000平方メートルの砂畑で、お百姓に擬っている仲間達が遠州横須賀名物の「しろした糖」の原料となるサトウキビを育てています。

サトウキビのほかに、野菜やハーブなどもたくさんあります。子供たちにとっては大きな大きな「お砂場」。遠州灘の波が打ち寄せる日浜やサンサンファーム「いちご摘み村」などとあわせて、家族連れでアウトドアライクな一日が楽しめます。(松本芳廣生徒)

●浜松市生涯学習フェスティバル 桑市楽座ーロクリエート

とき: 11月28日(土)9:30〜17:00
11月29日(日)9:30〜16:00

昨年より、中央公民館の三遠州南信講座(講師:松田不秋生徒)卒業生で結成された同好会「三遠南信を学ぶ会」(梅田啓子、鈴木正子生徒)と天龍村坂部(関めだか夫婦)との交流が始まった。今春には伝統行事ぶさまつり見学、梅採りなどで交流を深めている。今回は交流紹介展示と、現地のゆべし生産組合の方たちと一緒に作った梅加工品なども販売する。また、28日には生涯学習講演会として東大教授・佐藤一子先生の講演と南信濃村(玉置洋一生徒)霜月祭の上演が行われ、松田生徒が伝統芸能について解説をする。お問い合わせは生涯学習センター
☎05334531800

トピックス

☆「なんしよ、かんしよ」

100えんタヨー」好評で、100えんタヨー」好評です。イベント屋さんと称する「いなかをかついで、ほいさつさ」16人の面めん、このほどほいさつさ農園を開設、この夏からナス、キュウリ、シシトウ、ピーマン、ジャガイモ、シヨウガと続々収穫が続き、これらを何とか処分する方法はないのかとメンバーで協議の結果、100円無人売店を始めた。今は、サトイモ、サツマイモ、カボチャ、タマネギなどが並べられ人気を得ている。会員たちは、「能力もなければ、役職もない。これがまさにムノウヤク農業だよ」と昼休みの缶ビールを楽しみに、今日も百姓に精をだしている。それにしても100円は尊いものである。

☆全国山野草研究会設立に向けて準備すすむ

「葉は草を楽しむ」と書くんです。山野草研究家で我がめだかの学校の元気者、篠原準八さんが、全国の自然愛好家やつみくさ料理関係者に呼び掛け、近々同研究会をスタートさせる予定である。これは、近年の自然指向、健康づくりなどの目的から山野草が見直されつつあり全国的に静かなブームとなっている。設立後は会員同志の情報交換をはじめ、各地域間のネットワークづくりや、山野草ツアー、鉢植え、料理などいろいろな事業と交流をひらけていく予定である。詳しい内容は改めてめだかの生徒へお知らせする予定である。ちなみに「つみくさ」は篠原生徒の商標登録である。

メダカ春秋

◆まちとむら、結び目同士が見詰め合えてこそ

都市と山村との結び目のめり込んで早くも10年余、身近な芽生えの二つに、浜松の高齢者グループが物づくりを仲立ちに、天竜村坂部に土と友を求めて動き出した。山菜狩りと梅採りを共に、現地で製品化した収穫物は、交流産品として浜松のど真ん中で一緒に店を張ろうという寸法。似た者同士なら馴染み合うのも早い。その様子を傍目に、喜んでくれたのは思いがけず介添え役の若いお母さんだった。

交流から連携へ、物づくりを挟むことでまちとやまとの隔たりはごく自然に超えられそう。そんな手応えを覚えるまでに、幸いしたのは、山村側にも共通した思い入れで、まちを見る目が肥えた素敵な結び目がいてくれたことに尽きる。見知らぬ者同士を集団で見合わせるとなると、いつでもどこでもという訳には行かない。まちとむらとの引き合わせにまだまだ気配りが必要だ。うまく行くか行かないかは、双方の結び目同士の意気投合が心安く得られるかどうか、鍵と知って、思わず冷汗や汗を覚えたのは、俤そうに、地域づくりを先導ぶつてきたものの、ふと見回して、即座に手を打てる相手となると自信に揺らぎを覚えるばかりだった。むらの崩壊が見える第二の過疎化を目前に「貴方のために私は何をしておられるか」そのレベルでしっかりと手がつなげられる、連携の基礎となる最も大切な条件開発をついつい疎かにして来たのではないか。ネクタイ議論を捨てて、泥靴に履き替え、今一歩二歩のじり寄り、が今更ながら思い知った。

(松出千秋)

お知らせ

☆継続生「100文字主張文」

小冊子として発行

第6期開校(10年9月1日)11年8月31日)にあたり、継続生に提出していただいた「100文字の主張」は、小冊子にまとめます。9月4日の「21回めだかの学校」で発表した生徒は60余名です。100文字びつたりの主張文の人や、字余りの人もあったり、中には字余り文の方が多く、教頭先生に注意された生徒もいました。100文字にまとめることが本当に大変だったと実感した生徒も多かったでしょう。それにしても、自分の思いを100文字で人に伝えることができることを発見したことは大きな収穫だったと思います。また「100文字の主張」を提出していない方は、早急に提出してください。12月4日の22回開校日に配布する予定です。なお冊子発行に際して、9月4日の開校日に武井校長からご協力をお願いしましたところ、28000余円が集まりました。ありがとうございます。いま見積りをとっていますが、78万円かかる予定です。あらためて1冊3000円のご協力をお願いすることになるかも知れません。その節にはよろしく願います。

☆新しい名簿をつくりまします

従来の名簿は、1期から入校・継続手続きを済ませた生徒から順番になつておりましたが、今回は入校期とは関係なく、50音順にすることにしました。入校・継続手続きが、とられていない生徒は、自動的に名簿からはずれ、自動退学となります。まだ手続きをしていない生徒は、早急に済ませてください。

事務局より

■六期の入校手続きを!!

六期は10年9月1日から11年8月31日までです。新入生・継続生ともに手続きが必要です。

新入生・継続生ともに入学手続きが必要です。同封の入校申込書に記入し入金1000円を添えて提出してください。在校生で、手続きがされていない方は自動的に名簿からはずれます。入校金納入をもって「めだかの学校生」となります。

■各地のたよりの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、2月ですので、1月20日までに事務局へファックス、又は封書にてご送付ください。

めだかの学校事務局

T431125031
静岡県引佐郡引佐町東久留女木
472-1111
「リンデンバウム」内 榊原幸雄
TEL・FAX
053545-0381

※「つみくさ」は学舎のみです。すべての連絡・お問い合わせは、「事務局」にお願いいたします。